

町内会長さんへ号外!

会議を上手に進め多様な意見をわかりやすく「見える化」… そんな技術が身につく講座が9月26日伊達市で初開催! 地域自治組織立ち上げに役立ちます!

福島県主催、支援センター協力で開講
「ファシリテーション・グラフィック講座」

9月26日(金)に、福島県主催の「共感力がキメテ☆
～基礎から学ぶファシリテーション講座～」part1 ファシリ
テーション・グラフィック編が開催されます。これはふ
くしま地域活動団体サポートセンターが県内各地で運営す
るファシリテーション技術を学ぶ講座で、伊達市での開催
(協力、支援センター)は初。今回はその技術のひとつで
ある、「議論を見てわかるように」描く図解技法「ファシ
リテーション・グラフィック」を実践します。参加者がグ
ループでホワイトボード・模造紙に議論の内容整理をする
「ワークショップ」のほか、具体的な場面別での活用方法
など、効果的なファシリテーションの手法を学べます。

「課題の洗い出し」「解決策の模索」など
結論が見えない会議の進行に役立ちます。

会議など話し合いの場で、「何が目的なの?」「意見が出
てこない。」「結局何をどうするの?」と感じた経験はあり
ませんか?そのような問題を解決するための手法がファシ
リテーションです。特に、ファシリテーション・グラフィ
ックは、議論の流れや意見の全体を「見える」ように整理
する方法で、初めから結論が見えない会議での「課題の洗
い出し」から「解決策の模索」へ段階をふまえた議論を促
進します。結果、問題への共通認識が形成され、問題解決
にむけた積極的な活動が行えるようになります。

～「地域自治組織立ち上げ」に「どう役立つか」については裏面をご覧ください～

共感力がキメテ☆ ～基礎から学ぶファシリテーション講座～
part1 ファシリテーション・グラフィック編 ～あなたの言葉を描こう!～

★伊達市★ **9月26日(金) 13:30～16:30**

会場 **伊達ふれあいセンター内 2階会議室**

【講師】 遠藤智栄氏 地域社会デザイン・ラボ代表 プランナー・NPOアドバイザー

【対象者】 NPO法人 市民活動・ボランティア団体 公益法人 社会福祉法人 学校法人 **地縁組織** 協同組合等の民間非営利組織の関係者

■主催：福島県 ■運営：ふくしま地域活動団体サポートセンター（運営受託）認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター

参加希望の町内会長さんはまず支援センター ☎ 583-2800 までお電話ください



ファシリテーションってなに? ファシリテーション・グラフィックって?

【ファシリテーション】

会議やワークショップなどで、中立の立場で話の整理や意見の促進を促し、参加者が認識を一致できるようにして「組織の活動」を相互作用で活発化させる技術。ファシリテーターとはその集団による問題解決や相互作用をサポートする進行役にあたる。

【ファシリテーション・グラフィック】

ファシリテーションの手法のひとつ。会議など話し合いの場の内容を、ホワイトボードや模造紙等にグラフィック（文字・図表、イラスト、色彩）を利用してわかりやすく表現すること。整理するだけでなく、参加者に見て利用してもらうことが大きな目的。

参加無料

定員：16名

地域自治組織立ち上げに不可欠なのが地域住民の「協議」と「意見集約」!

「協議を進め」「意見を絵解き」する「ファシリテート技術」が役立ちます。

地域自治組織立ち上げの工程はいまどの段階?
「総合支所」中心に行政支援も本格稼働し始めました。

今、伊達市の各地域では「交流館単位」での「地域自治組織」立ち上げの動きが始まっています。

モデル地区の「山舟生」ではこの秋の立ち上げを目指して「地域の計画づくり」に取り組んでいますし、梁川地区、保原地区では、複数の地区交流館から「立ち上げ支援交付金＝17万円」の申請が出され交付されています。他地区でも順次「説明会」が開催され、「自治組織」立ち上げの動きが本格化し始めました。

行政サイドの支援体制も本格稼働し始めました。下記一欄にあるような、「財政」「事務環境」「設備」各面からの、「地域自治組織立ち上げ支援メニュー」を整え「総合支所」「市民協働課」そして「市民活動支援センター」一体となったサポートも始まっています。

(サポート一覧表)

地域に対する支援	
①組織の立ち上げ支援	17万円 (1団体あたり)
○地域自治組織が、い、地域に対して、組織の立ち上げの準備に必要な事業費を支援します。	
②他地区に先駆けて広域で活動する組織への支援	20万円 (1団体あたり) + (100円×世帯数)
○広域で計画的に地域自治事業を実施、または実施しようとしている組織を支援。 ○平成26年度中に組織化した団体に対して、平成26年度自治組織を運営するための支援	
③地域課題の解決に取り組む組織への事業費支援	40万円 (1団体あたり)
○地域の新たな課題解決・活性化のための事業に対して支援。地区のやる気を支援 ※ 組織化後に地域の話し合いの中で、新たな取り組みが必要な事業に対して支援	
活動環境の整備	
①事務環境の整備	
○交流館の運営に必要な事務機器等の整備を支援します。	
○事務環境整備内容 事務室スペース確保・OA機器・通信等整備	
②施設の維持管理	
○交流館を適切に維持管理し、必要に応じて修繕などを行います。	
その他の支援	
①市の業務	
○組織の立ち上げから、組織の運営、活動まで、地域任せではなく、行政の関係部署が関わりを持って対応します。	

欠かせないのが「課題を探り」「解決策を模索する」「協議」「ファシリテーション技術」があればスムーズに運べます。

「地域自治組織」立ち上げ工程で不可欠なのが、何が地域課題かを探り、解決策を模索する「住民協議」。でもこの協議は最初から答が見つかっていての協議ではありませんから、簡単に結論に辿り着けるかどうかわかりません。そんな時に必要なのが「ファシリテーション技術」なのです。

表面で解説していますが、要は、協議がうまく運び、容易にアイデアが飛び出し、課題解決に辿り着けるように「舵取りする技術」が「ファシリテーション技術」で、今回の講座ではその基本を身に付けていただこうとするものです。

会議や懇談会を「上意下達の連絡指示の場」とせず「参加者の創意と総意を汲み上げる場」にするのが「ファシリテーション技術」。山舟生モデルでは、こうした懇談会を連続開催して、「地域づくりの夢やアイデア1200件」を汲み上げ、これを「262の事業アイデア」に整理し、ただいま「地域づくり計画」に仕上げる作業に取り組んでいるのです。



↑ 262の事業アイデアカード

山舟生では「懇談会」の名称で「ワークショップ」を開催。「ファシリテーション技術」をフル稼働して、地域住民の意見・創意を汲み上げました。

「支援センター」は「地域自治組織立ち上げを技術面でサポート」

山舟生モデルでわかる通り「地域自治組織の主役は地域住民」です。これを名実ともに実現するには、地域住民が当事者として「地域課題を洗い出し」「課題解決のアイデアや夢を出し合い地域づくり計画に仕上げ」その実現部隊としての「地域自治組織」を「編成・立ち上げ・運営」していく必要があります。「支援センター」は山舟生モデル支援の実績を生かしその全工程をサポートします。お気軽にご相談ください。

伊達市市民活動支援センター

電話番号：024-583-2800 FAX：024-583-2820

○開館：毎週・火～日曜(月曜休館)

午前9時～午後6時

伊達ふれあいセンター3階まで

